

部会 概要

部 会 名	平成30年度第1回アセットマネジメント実践検討部会（グループA）
開 催 日 時	平成30年8月1日（水） 13:30～16:30
開 催 場 所	ときわ会館 中ホール
出 席 者	<p>【部会委員】 さいたま市、川越市、熊谷市、所沢市、春日部市、草加市、越谷市、戸田市、入間市、桶川市、北本市、三郷市、日高市</p> <p>【有識者】 有限責任監査法人トーマツ アドバイザリー事業本部 パブリックセクターアドバイザー パートナー 宗和 暢之 氏</p> <p>【傍聴者】 富士見市、幸手市、三芳町、毛呂山町、杉戸町</p> <p>【事務局】 埼玉県市町村課</p> <p style="text-align: right;">計36名</p>
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 外部有識者による講演 4 部会参加団体の取組状況の発表 5 意見交換 6 閉会
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・出席者名簿 ・講演資料（有限責任監査法人トーマツ作成資料） ・個別施設計画の策定に向けた取組状況について ・意見交換テーマ一覧
意 見 交 換	<p>（1）再編計画・学校統廃合について</p> <p>○ 学校統廃合の進め方、防災計画との整合性について</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童数の減少をきっかけとして、統廃合を進めている。閉校となる学校の跡地は、行政利用、民間利用を検討している。学校は避難所として使用しているため、民間利用とする場合でも、引き続き避難所として使用できるよう検討している。 ・ 学校統廃合を検討しているが、住民説明会において、避難所がなくなるのはどうかという意見があった。民間利用とする場合でも、災害時に避難所として使用できるよう協定を締結することも必要かもしれない。 ・ 学校統廃合は地域にとって影響が大きく、議論することが難しい。

【有識者から】

- ・ 学校統廃合は公共施設マネジメントを進める上で直面する問題で、将来の児童数を推計することで、議論はできるのではないかと。児童によっては学校までの通学距離が長くなることもあり、交通面のことも一緒に考えていく必要がある。

(2) 各種対策について

- 長寿命化と建替えの選択について
- 施設更新に係るコスト低減の取組について

【主な意見】

- ・ 既存の建築物を長寿命化し、長く使用することがコスト縮減に資すると考えるが、長寿命化工事に想定より多額の費用が生じる場合があり、長寿命化か建替えかの判断手法を検討する必要がある。
- ・ 計画で長寿命化の対象施設を定めているが、躯体調査を行い、結果によっては改めて建替えも含めて試算するなどして検討する。
- ・ 長寿命化は割に合わないのではないかとという意見もある。
- ・ 施設の用途によっては、軽量鉄骨や木造等で整備して、短い更新サイクルとしたほうがコストを抑えられるのではないかと。

【有識者から】

- ・ 建築時と利用実態が合わなくなったり、設備が老朽化したりする等の理由により、施設を耐用年数まで使うことは少ないのではないかと。長寿命化を前提とするのではなく、施設を何年使用するかという目標を最初に設定するほうが良いと考える。

(3) 住民説明及び庁内合意について

- 住民説明や周知の方法、多くの方に関心を持ってもらうために
- 庁内合意形成の方法について

【主な意見】

- ・ パンフレットやチラシを作って配布しているが、説明会の参加者は少ないため、若い世代の方が利用する施設にチラシを設置したり、地域のまちづくり協議会を訪問して直接渡したりするなどしている。
- ・ 学校に依頼して若い世代の方の参加を促している。
- ・ ワークショップを予定しているが、まちづくりをテーマに幅広い世代の方が自主的に活動しているグループに対して参加を呼び掛けることを考えている。
- ・ 庁内に検討会議を設置し、その下にワーキング部会、プロジェクトチームを設けて調査研究を行っている。

【有識者から】

- ・ 住民への説明はわかりやすい言葉で伝えるべき。また、自ら出向いて説明することも必要ではないか。
- ・ 庁内合意については、3つのポイントがあると考え。1つ目は、横断的な委員会等を設けて議論する場を作ること。2つ目は、計画やプロジェクトについて、最終的な成果物をイメージして議論すること。3つ目は、共通の危機感を持つことである。